

大豆の技術対策

平成23年8月5日
丹南農林総合事務所

1 大豆の生育状況

7月20日頃から開花が始まり、早いところで開花盛期となっています。
晴天が続き圃場が乾燥し、葉が裏返っているところでは灌水が必要です。

2 今後の対策

1) 畦間灌水

培土後、高温多照が1週間以上続いたら実施。水分不足により葉が裏返る前に実施する。

- 大豆は畑作物であるが、水の要求は水稲よりも強い。
- 特に開花期から子実肥大初期（7月下旬～8月中旬）に水分を必要とする。

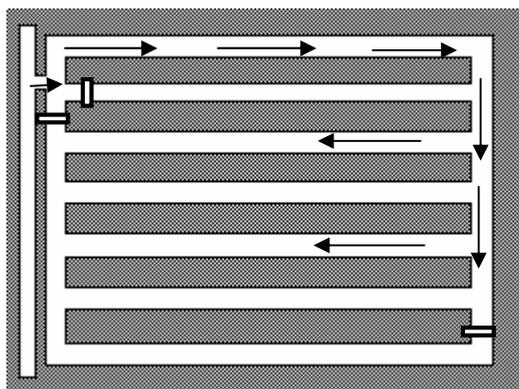


方 法

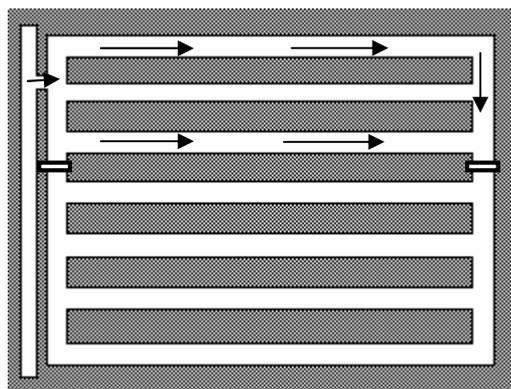
- ① 排水の落とし口や暗渠のふたを確実にすべて閉じる。
- ② 用水から一気に水を流し込み、行き渡ったら止める。余り水はすぐ排水する。

注意点

- ① 圃場内にあまり長く水がたまっているとかわって湿害を起こすので、ある程度まとまった量の水を短時間に通し、すぐ排水する。
- ② 灌水時の水位は培土したうねの肩辺りまでで、畦を越えないようにする。
- ③ 灌水は地温の低い朝か夕方に実施する。



額縁排水溝を活用し、まず排水側に送ってから畦間に通す。



水量が少なければ、小面積ずつ実施

- ④ 排水条件の悪い圃場では、逆に湿害を発生させるため実施しない。

3) 病害虫防除

① ウコンノメイガ

葉の巻き始めの防除が効果高い。サイアノックス粉での防除を早急を実施する。



ウコンノメイガ

② 紫斑病

防除適期は開花後20～35日。7月20日頃からの開花として8月10～25日が防除適期でこの間に2回散布。

耐性菌対策として、系統の異なる薬剤を用いる。

③ シロイチモジマダラメイガ

若莢期の8月中旬から2～3回防除。



シロイチモジマダラメイガ

④ カメムシ類

子実肥大期の8月下旬以降から2～3回防除。

⑤ フタスジヒメハムシ

莢伸長期の8月中旬頃と子実肥大期の8月下旬頃の2回防除。

ダイシストン粒の播溝処理を行なった場合は8月下旬の1回防除を行う。

<防除体系>

時期	対象病害虫	薬剤	散布量
8月上旬 (ウコンノメイガ発生初期)	①	サイアノックス粉剤	4 kg/10a
8月中旬(開花後20日目)	②④	マナージトレボン粉剤 DL	3～4 kg/10a
8月下旬(開花後30日目)	②④	スミチオンベルコート粉剤 DL	3 kg/10a
8月下旬～9月	④⑤	アルバリン粉剤 DL	3 kg/10a
9月中旬(子実肥大期)	③④	トレボン粉剤 DL	4 kg/10a